

忘れられた叡智を求めて

第15回

若き日に、一人の先達と巡り会い、縁あって、戦略

思考の鍛え方について学んだ。「戦略思考を鍛えたいならば、その戦略的状况を、瞬間的に視点を移し、反対側から見る訓練をする」とよい。

将棋盤に喩えて言えば、その将棋盤を180度回し、相手の立場から盤面を見る訓練をする」とよい」

この先達の教えに従い、それからの年月、仕事を通じて、戦略思考の修練をしてきた。

そして、瞬間的な視点の転換を大切な心構えとして行いながら、職業人としての道を歩んできた。

その結果、視点の転換という戦略思考の要諦は、わずかながら身体的な智慧として身につけることができたが、一つ、不思議なことが起こった。

真の「戦略思考」とは

「相手の立場に立つて、

その戦略思考を読む」

その修練をしていると、副産物のごとく、自然に一つの力が身についたのである。

「相手の立場に立つて、

その心境を思いやる」

そして、その力を身につけたとき、戦略思考の本当の意味が、見えてきた。

「戦略」と書いて、

「戦いを略く」と読む。

すなわち、戦略思考とは、「いかにして戦うか」の思考ではなく、「いかにして戦わないか」の思考。

相手の立場と心境を考えるならば、戦わないでもよい場面では、戦いを避ける。

そのことの大切さに気がついたのである。

それ以来、さらに縁あって「戦略参謀」という仕事に携

わった。そして、著書でも「戦略」について語ってきた。

そのため、しばしば、経営者の方々から、企業の戦略について、相談を受ける。

そのとき、いつも心に浮かぶのは、やはり、先ほどの言葉。

「戦略」と書いて、

「戦いを略く」と読む。

では、なぜ、経営者は、無用の戦いをせず、目的を達するために、戦略思考を尽くさなければならぬのか。

この問いに対して、経営コンサルタントやビジネス・スクールの方々は、しばしば、こう答える。

「経営資源を有効活用するため」「経営資源を無駄に使わぬため」

たしかに、それも一つの見識。



田坂広志

[内閣官房参与
多摩大学大学院教授]

しかし、永年、経営の現場で苦闘する人間の姿を見つめていると、この答えには、何か乾いた寂しさを感じる。

では、なぜ、経営者は、戦略思考を尽くさなければならぬのか。

それは、決して、「経営資源」を無駄に使わぬためではない。

「部下や社員の人生の

かけがえのない時間」

それを大切にするために、経営者は、戦略思考を尽くさなければならぬ。

なぜなら、いかなる華々しい戦略も、その陰で、一人の人間が、かけがえのない人生の時間を、捧げているからである。

そのことに気がついたとき、真の「戦略思考」が始まるのである。